上田蚕糸專門學校

校報會曲千

昭和十八年六月二十五日　第二十九號　社團法人千曲會

去る四月二十二日米内大將が唐木田氏の案内で入信され母校へも立寄られた。閣下は非常に御多忙の御樣子であつたが本校のため寸暇を割いて訓話をして下さつた。以下は其の内容の概略であるが吾々學徒の向ふべき所を語られ、又研究態度を述べられ、吾々が日常勵んでゐる科學が現在如何に必要であるかを明示された。

訓話

海軍大將　米内光政

私は只今御紹介にあづかりました米内であります。校長先生から御話をせよとのことで出ましたが何も新しい話の持合せもありません。申す迄もなく只今は大東亞戰爭の眞最中であります、前線の將士は全力を盡して勇戰してをります、之れに對して吾々は大いなる感謝を捧げなければなりません。又銃後に於ては如何なることをしなければならないか、この覺悟は充分出來てゐることゝ思ひます。殊に校長先生初め外の先生方からも、向ふ所は充分教えられてゐると思ひますから之等の點に就いては略します。

諸君は科學者として、技術者として立つて行くのでありますからこれに就いて自分の考へを申上げれば多少なりとも御參考になると思ひます。私は海軍に於て現役を四十餘年も勤めてをり其の間渉茫たる海を眺めてゐました。又諸方に遠出して雄大なる山々を眺めました。其の時常に深く感ずることは天地の恩惠であります。昔から「天道自然限りなき所間然する所なし」と云はれてゐますが其れは今迄の吾々の經驗は間然する所なき天地の雄大さより眺める時は極めて微々たるものであり、又何をなしても無から有は生じません。或は又新しいことを創造するとしても天地の間に備はつてゐればこそ工夫も出來るのであります。例へば蘭に就いて考へても、蘭を中心として過去も將來も考へられます、其れを中心として地理もあり歴史もあり、其の他あらゆる天地全體のことが考へられるのであります。其の樣に蘭だけでも關聯する所は天地全般に亘つてをるのであつて將來この天の惠により新工夫を凝らすことによりまして凡ての事物は進歩をするのであります、其の結果は天の惠によるのでありまして吾々はこの天地の恩惠に對して無限の感謝を致さなければなりません。

今日高山に圍まれた當地へ來て考へられるのでありますが、世間でよく山を征服すると云ふ言葉を用いますがこれは天地の恩惠に對する大いなる冒瀆であると思ひます、天地の惠あればこそ登山も出來るのだと思ひます。諸君が研究、工夫をするのも天地の征服ではないのでありまして工夫により新しいものが出來たならば其れは天地の間に存在したものを發見したに過ぎないのであつて天地に對して感謝すべきであり、又自分だけの功名の如く振舞ふのはいけないのであります。海軍と科學は極めて關聯の深いものでありまして私は何をなすにも常に天地の惠に感謝しつゝやつて來たのであります。

希はくは諸君も左樣な氣持でやつて行きましたならば興味も沸き、工夫も出來又進歩もすると思ひます。以上のことは私個人の考へかも知れませんが少なくとも私は今日迄其の樣な氣持でやつて來てをります。諸君にこの氣持がわかつて戴ければ幸この上もないのであります。餘りに抽象的なことを申上げましたがこれを以て私の今日の責をふさぐことに致します。

（文責編輯部）

謹告

紙面節約の都合上本月號より、編輯の模樣を少し更へました。即ち第一面の寫眞及び目次を削減し、表題を左書きに改め縮版致したのであります。

紙面及び經費は勿論窮屈でありますが、さりとて御投稿を躊躇される樣な事がありましては編者として誠に申し譯ない事と思ひます。云ふ迄も無く紙面の節約も内容を豊にせんが爲でありますから、其の點を充分御了承下され振つて御投稿あらん事を御願ひ申し上げます。

編輯室

隨筆

幾田精一氏功績記念碑除幕式に參列して

京城　矢澤茂登一

（其の三）

幾田氏は鮮人と毎日接し居られる爲、朝鮮語は二年も經ぬうちに上達せられ、自己經營の傍ら鮮農の指導啓發に力を致されたのであつたが、當時の農業は穀作に偏り何等見るべき副業がなく、農閑は無爲徒食に過し、婦人等は炊事と洗濯に日を過すと云ふ有樣で、經濟は窮迫する計りであつた。氏はこれを憂慮し種々研究された結果着眼せられたのが「鹿ノ子絞り」の仕事であつた。氏は自ら京都、名古屋に出向き其の技術を修得して歸り附近の農村婦女子に奬めて傳習を開始したが、奬めても應ずる者が少い、應じても技術の進歩が遲い、折角覺えても永續きはせぬ、布地の羽二重を汚すやら紛失するやらの事故も續出して來てなか〳〵業としての態を爲さぬ、然し氏は不撓不倒、熱と力を以て誘掖指導に當られた結果、一人殖え二人殖え漸く曙光を見出すに至つた所又々一大難關に逢着して終つた。當時の關税規則は羽二重の移入に課税されたので絞加工の爲内地より送り來たれる絹布に課税されては絞加工は採算がとれぬことになる、氏は官當局に再三陳情し絞事業の朝鮮に於ける有望性を說明して粘り强く規則改正方を要請した爲當局も氏の誠意に動かされ規則の一部を改正し、或る期間内に内地に送りかへす場合は課税せぬことになつた。この改正により難局は打開され、氏を中心とする「絞り仕事」は北三、若木兩面に次第に普及し農村婦女子の副業として深く根を張るに至つた。漸くこれ迄に築き上げたかと思ふと一難去れば又一難此度は家庭的の御不幸である、渡鮮後御勞苦を共にせられた御令閨樣が重病に罹られ遂に御他界になつた。此の御不幸は同氏としては水害や事業上の御苦難に比ぶることの出來ぬ一大打擊であつて御慰め申上ぐる言葉もなかつたのであるが、同氏の初一念は決して動かず、敢然と立ちて事業に精進せられたのであつた。當時の御心中は實に御察し申すに餘りがあるのであつた。絞り事業が態を爲し一般に着眼せらるゝに及び、同氏に倣ひ同事業を企てる者が現はれて來た、私はこれ迄苦勞して築き上げた仕事が人に奪はれたり侵害せられては殘念だと考へ、或る時同氏に訊ねた所同氏は

「誰がやつてもかまひません、企てる人が多くなれば普及も早いし私の目的も達せられます」

と寛仁な態度を示され、大衆と共に生き決して利益を獨占せぬと云ふ高潔な御精神には自ら頭が下るのであつた。

斯くして絞り仕事は多くの企業者により實施せられ、夫々内地の問屋と契約して各々の地盤を開拓し相當な競爭が行はれたのであつたが、幾田氏はこの渦中に投ぜず默々として自己の所信に向つて堅實に經營をつゞけられた爲、同氏を中心とする本事業は年と共に擴張發展し私が一時心配したことは全く杞憂に過ぎなかつた結果を示すに至つた。既述の通り同事業は慶尙北道を中心とし忠南、慶南、全北の四道に亘り普及し、絞工業と稱へらるゝ業態迄發展し、從業戸數十四萬戸年工賃二百萬圓の巨額に達する盛況を示す至つたことは只々驚嘆の外は無いのである。最近絞工業は統制せられ前記四道に絞工業組合が組織され、其の上に朝鮮絞工業組合聯合會が出來、幾田氏は慶北絞工業組合長と朝鮮絞工業組合聯合會理事長の榮職に就かれ傍ら大華果園の經營普通農事の經營に當られ繁劇な毎日を送られ健鬪をつゞけられて居る。（完）

（昭和一八、四、一五稿）

戰の斷片

三多兵古

秋晴の太陽は、午後の光をじり〳〵と背に照りつける。

汗がポトリポトリ顎に流れ、そして汗と泥にまみれた征衣に吸ひ込まれて行く誰も彼も目のみ光つて居る。鬚は伸び顏は〇〇出發以來洗つた事も無い。

鬚の顏、汚れた銃、裂けた衣に靴、皆烈しかつた一ケ月の歷戰をまざ〳〵と物語つて居る。

暑い、咽喉が乾く、背嚢は肩に喰ひ込む。糞！中山伍長は思はず叫んだ。「なんだ中山頑張れ！」とこれも顏中汗だらけの戰友高橋伍長がフウ〳〵云ひ乍ら怒鳴つて居る。

出發の時〇隊長が「戰爭は結局根比べだ。吾々が苦しい時は敵も苦しいのだ、否吾々以上に苦しいのだ。結局弱根を吹いた方が負けなのだ。いゝか戰爭は根比べだぞ」と訓辭した。

よし頑張るぞ！糞！チャンコロになど斷じて負けぬぞと、中山伍長は此の一週間殆んど芋のみしか入れない腹に力を入れて歩き出した。

「オイ頑張れよ、後僅かだからな」

と班長が云ふ。

そうだ浙東に於ける敵最後の牙城〇〇は後僅か一六粁だ。頑張れ！〳〵口には出さねど互に目と目で勵しつゝ進む。

路は一小部落を出てうね〳〵と曲りつゝ遙かな林の中に消へて行く。見渡す限り兩側は刈る人とて無い稻田が水をたゝへて風に靡いて居る。

林の向には標高二〇〇位の三角山が聳へ、其の兩側には同高位の丸い山々が起伏を見せて吾々の行手に立つて居る。〇〇はあの山々の向ふだ。後僅か皆なんとなくほつとした時、突然行手に當つて猛烈なチエッコの音が響いた。

又敵か！期せずして皆の目が前方を睨む。ダッダッダ：：又一連前方の三角山からだ。生意氣にも吾々を狙つて居る。ダッダッダ：：猛烈な掃射が來た。距離六〇〇彈着が近い、目の前五十米位の所にサート水柱が立つ。ダッダッダー又地形が惡い、四圍は稻田、而も水が滿々として居る。遮蔽すべき地物とてない。

「駄馬は直ちに半輪！後方の部落に集結、別命ある迄待期！

徒歩小隊は前方三角山の敵を攻擊！

中隊の進出を掩護せよ！」。

それ來た！輕機の豫備彈藥を手早く馬から卸下する。鐵帽をつける。凡て一瞬、誰の目にも先刻の疲れは無く、只必勝の信念に燃へて居る。

前方の林迄約三〇〇、あの林へ！と期せず思ふ。

ダッダッダ：：又一連伏せる四圍に無數に水柱が立つ。このまゝでは危い。

「重機は現在地で掩護射擊！第一第二分隊及輕機分隊は前方の林迄前進！」

「よし！オイ輕機分隊は各自の距離二〇米、俺の後について來い」バット班長が飛び出して行く。

兎に角林迄の一本道を早駈で突破するのだ。「俺が行くぞ！」と高橋が飛び出した。

一段とチェッコが鳴り叫く。見ると行手の一本道を狹んで猛烈に水柱が立つ。「糞！狙つて居やがる！行くぞ」と金井が輕機を抱へて丸くなつて飛び出した。

「俺が行くぞ！」と中山伍長も力一杯土を蹴つて飛び出した。彈丸も水柱も見へない。只前方の林を睨んで走る。息が切れる。前方に金井が伏して居る。思はず中山もドツト伏した。ピピ：：：と彈丸が猛烈に風を切つて行く。

後林迄一〇〇チェッコが鳴り終つた、今だ！金井と中山はパット飛び起きた。此處だ／＼と班長が手を振つて怒鳴つてゐる。二人は轉がる樣に飛び込んだ。大丈夫か！大丈夫。「よし俺の後について來い」と林の前端へ進出する。敵の眞新しい藥莢が散亂して居る。

三角山が直ぐ前に見へる。四〇〇は有る。「班長！三角山の前の部落の右高地に敵の輕機」目のよい高橋が素早く見つける。林から三角山迄は、畑地と水のあ稻田、三角山からは丸見へだ。正面からの攻撃はむづかしい。右に迂回して、右の高地を奪取すべきだ。「班長右から行きませう」期せずして叫ぶ。「よし金井と大場は現在地で右高地の敵を制壓！合圖したら前進して來い。他の者は各個躍進、目標は右の高地だぞ！」再び平地に飛び出す。右の高地迄二〇〇は有る。金井の輕機が鳴り出した。と目の前の土が飛ぶ、思はず伏せる。横を見ると高橋伍長が泥だらけの顏を伏して、ニヤリと笑つて居る。「オイ着劍するぞ！」「よし來た」彈丸が耳許をかすめる。稻の莖が折れ飛ぶ。這つては進み、進んでは伏しつゝ右の高地へ、右の高地へと幹候班十二名は班長を中心に全員火の玉となつて進んで行く。後一五〇あッ！逃げたぞ！誰かゞ怒鳴つた。オ、右高地の敵が逃げる。今だ突擊！突擊！糞！と水田を小川を畑を一氣に飛び越して「ウォー」と高地へ駈け登つた。敵！見れば十名餘りの敵の負傷兵がうん／＼唸り乍らも陣地を死守せんとして居る。なんだ此奴等と餘りの呆氣無さに暫し呆然とした。

「チェ中國兵（ッンピー）は戰友甲斐の無い奴等だ。負傷したのを置いて逃げるなんて」と高橋伍長が盛んに怒つて居る。この憤りは皆をして一層の敵愾心を燃へ立たせた。輕機も來た、重機も來た。「よし今度は逃げた奴等皆殺し」と猛烈に掃射する三角山迄三〇〇、九二重機は照準線に入つた敵を確實に倒して行く。然しチェッコは未だ吠へて居る。「奴何處に居るだらう」と皆目を皿の樣にして睨む。敵彈も近い、目の前の堆土にブス／＼刺さる「ピューン」と跳彈が飛ぶ。「居た！居た！」と又高橋伍長が「左の陵線上の一本松より指二指右の所！」よし見て居れと許り射線は變更された。忽ちダダダと氣味よい程射彈が集中された。一瞬敵のチェッコはぴたりと鳴りを沈めた。と同時に敵から一發も彈丸が來なくなつた。「オイ敵さん逃げたぞ！」やれ／＼汗をかゝせる。カラ／＼に乾いた咽喉に水筒の水のうまい事。

敵の負傷者は殆んど皆絶へた樣だ。彼等にも親兄弟が有るだらう。國に待つて居る妻や子が居るだらう。

生死を誓つた戰友に見捨てられ、敵で在る吾々の手から末期の水を與へられようとは。可哀相に、お前等は立派に戰つて死んだのだ。立派な戰死だ。然しお前達の爲政者の誤りに依つて其の戰死も光りを失つて行く、可哀相に。

「今度生れる時は立派に目覺めた支那人になれよ」と宮澤伍長がつぶやいた。

仰向く中支の秋空は飽迄青い。一片の白雲が悠々と去來する。

あの雲の流れ行く方には祖國日本が在る。吾々が笑つて命を捧げる事の出來る祖國があるのだ。

「オイ俺達は幸福だな」感激家の中山伍長は思はず叫んだ。「うん有難いな」と十二人の胸には期せずして祖國日本の大きな姿が浮んで來た。

後方を見ると先刻の小道を駄馬列が〇〇へ〇〇へと人馬一體怒濤の進擊を續けて行く。

終り（筆者絲十八回卒）

滿洲工業雜感

T S 生

乏しい智識、淺い經驗、此等のものより滿洲雜感等書く事はあまりに出過ぎた事に違ひない。然し最も新しい滿洲の工業事情、而も廣汎に渡る工業一般の見學事に違ひない。然し最も新しい滿洲の工業事情、而も廣汎に渡る工業一般の見學は、そう容易には出來ぬ樣に思はれ敢て筆を取つた次第である。

去る三月二十六日より約二週間、滿洲の代表的工場を見學する機會を得新興滿洲の工業地帶を訪れた。

全體として將に延びんとする工業の體動が感ぜられると共に到る所、科學日本の凱歌の上つてゐるのは實に賴母しかつた先づ工業部門より現狀を話さう。

1、鐵鋼業（鞍山、本溪湖、宮ノ原）

鐵鑛と石炭に惠まれたこゝ滿洲では原鑛よりの製鐵が素張らしい勢で發展しつゝある。而も直接戰爭の主體となる製鋼には生產戰線の必死の努力が感ぜられる彼の有名な鞍山の還元焙燒による選鑛により貧鑛處理に成功した昭和製鋼は更に二倍の擴張をなさんとしつゝあり、一方本溪湖、宮ノ原で本邦唯一の低隣銑の製造に全く血みどろの奮鬪が續けられてゐる。賴母しい限りだ

滿洲の鐵は內地の鐵よりヴァジィニティーの點、低隣の點より性質優秀であり又夫だけに之に從事する技術者の責務は重大である。

2、石炭及頁岩油（撫順）

滿洲の石炭と云へば直ちに誰しも撫順を考へる。然し滿洲に於ける石炭の埋藏量は實に莫大なるものがあり、老年期の撫順より新たな炭田の開發が進められてゐる。然し其の質及量にて最も現在の原動をなす撫順につき述べると、撫順炭の優秀さは衆知の所であり其の大半は現在製鐵用の骸炭に使用せられてゐる。又石炭手近の爲に撫順は全市一大工業都市と化し「石炭液化」頁岩油工場「輕金屬」「發電所」「製鐵業」其他あらゆる工業が興つてゐる。フイッシャー法に依る石炭液化は獨逸の夫れと同じく現代航空ガソリンの需用に偉大なる貢献をなしつゝあり、又頁母油工場は世界最大のものであり、而も不可能とされてゐた貧鑛處理に成功した日本化學者の努力が偲ばれる液化と同樣戰時下の渴望せる液體燃料及潤滑油の生產に全力を上げてゐる。

火力發電と呼應して輕金屬工場があるボーキサイトの資源を持たぬ滿洲は礬土頁岩よりアルミナ抽出の工業化に成功し航空機材の生命たるアルミニウムの生產及マグネシウムの生產に全力を上げてゐる。こゝにも我國化學技術の凱歌は高らかに上つてゐる。

3、電氣及電氣化學

今迄の石炭產出にたのみ火力發電は到

る處大いに發達してゐる。更に今電力の一大增强を目指し「大豐滿」「水豐」ダムを完成膨大なる電力を供給せんとしてゐる。之に對應し電氣化學が今一大發展をなしつゝある。大豐滿ダム發電所より電力を得る滿洲電氣化學工場を訪れると東洋の I.G 目指し今アセチレン系合成化學工場が盛に建設されつゝある。合成ゴム、合成樹脂、合成燃料、合成纖維、其他アセチレン系のあらゆる合成化學とカーバイト製造に要する骸炭の副產物との連絡に依る一大綜合化學工場の活動する日も遠くあるまい。

4、纖維

滿洲の纖維は柞蠶、蓖麻蠶及木材パルプ、豆桿パルプ等である。何れも現在は平和產業を脱し軍需方面より注目される樣になり、著々其の實が上げられてゐる

又蓖麻は航空潤滑油の生產と同時に蓖麻蠶が行はれ近年目覺しき發達をなしてゐる。パルプは安東及開原の豆桿パルプ等相當大規模に行はれつゝある。

全般を通じて滿洲の工業は戰時下の生產戰線として全能力を上げてゐる。而も工場全體に新興の氣が漲り潑剌たる躍動が感ぜられた。

未だ〳〵默々として眠る大資源を持つ滿洲、これを開發し之を利用して行く事こそ我々日本科學技術者の使命ではなからうか。

大衆の目が南に注がれる時默々として北進の歩を進めてゐる科學技術者のある事を忘れてはならないのである。

（五月一日）

（絲二十九回　一學徒の手記）

母校便り

信武會の講演

五月二十日午前八時より二時間に亘り恒例の信武會の講演が行はれた。講師は陸軍中將平林盛人閣下、陸軍少將齋藤齊一閣下で例年の如く時局と軍事思想の普及講演で多大の感銘を與へた。

御親閲拜受記念式擧行

五月二十二日全國青年學徒代表が宮城前にて御親閲を賜はりたる記念日に當り母校に於ては午前八時職員學生一同校庭に集合し報國隊編成式を施行、續いて勅語奉讀式並御親閲拜受記念式を行つた。

之に先立ち國旗揭揚、國歌合唱、宮城遙拜英靈感謝武運長久默禱を嚴かに行ひ、終つて校長の閲兵、分列行進があつて閉式した。

報國團員の體操開始

母校では體位向上のため五月二十六日より毎週、月、水、金の三回、學生、職員其他團員一同校庭に集合し午後〇時三十分より二十分間教官號令の下に規律正しく團員體操を行ふことになつた。

故山本五十六元帥遙拜式

六月五日故山本元帥の國葬日に當り母校に於ては午前十時四十分職員學生全員講堂に集合、全員靜肅裡に恭しく東方に向ひ南海に壯烈なる戰死を遂げられたる山本元帥の神靈に對し謹んで遙拜し、終つて校長先生の故山本元帥を偲ぶ烈々たる訓話があつた。

午後一時より全員上田飛行場に向け同場を見學し陸鶩の見事な高等飛行を目のあたり見て擊ちてし止まむの意氣を高揚した。

東部高農蠶水
柔道大會に優勝す

六月六日宇都宮高等農林學校に於て大會開催され本校柔道班出場し遂に六年連覇の偉業を完遂せり。

參加校　本校　宇都宮高農　水產講習所
東京高等農林　農業教育專門　千葉高等園藝　東京高蠶　以上七校

戰跡左の如し

第一回戰　上田蠶絲　宇都宮高農
先鋒　澤田——○山內
○松井——宮崎
○牧——坂口
○中澤——長谷川
○岡野——中田
○清水——石坂
○矢島——上野
○竹重——熊本
副將○野仲——平塚
大將　山本——○田邊

第二回戰　上田蠶絲　千葉高園
先鋒○澤田——柯
○松井——市村
牧——○武內
○中澤——上村
○岡野——佐藤
○清水——里河內
矢島—×—清水
○竹重——谷村
副將○野仲——南
大將○山本——石井

第三回戰　上田蠶絲　水產講習所
先鋒○澤田——毛利
○松井——西谷
○牧——四原
○中澤——知久
○岡野——蝦名
○清水——伊藤
矢島—×—中島
○竹重——土屋
副將○野仲——小林
大將○山本——梅本

優勝戰　上田蠶絲　農業教育專門學校
先鋒　澤田—×—今野
松井——○吉川
○牧——鷲見
○中澤——加藤
○岡野——永野
○清水——大恒
○矢島——小齋平
○竹重——岡田
副將○野仲——市川
大將○山本——關

最後に全國諸先輩兄の絶大なる御後援を感謝致します。（千脇記）

關東高農蠶水
劍道大會に第三位

我々は全力を盡つて眞摯敢闘す。敵に一勝の餘地も與へず、併し勝利の榮冠むなしく消える。

成績次の如し

一回目	本校6	4	東京高蠶
二回目	本校5	5	水產講習所
三回目	本校5	5	宇都宮高農
四回目	本校6	4	東京高農
五回目	本校7	3	千葉高園
六回目	本校5	5	東京農教

六月五日我が劍道班は班長佐藤先生並びに志賀先生引率のもとに關東高農蠶水劍道大會に出發す。驛頭に校長先生並びに諸先生の見送を受け校長先生からは熱情籠れる激勵の辭を賜り時恰も山本元帥國葬の日と相俟つて一層の感銘を受け擊ちてし止まん必勝の念に燃えて出發す。

明くれば六日、初夏の日に輝く綠の樹木に掩れた東京高蠶の道場に熱戰はくりひろげら

れた。參加校七校。

總點　34點　第三位
尚第一位　宇都宮高農　38點
第二位　東京高農　38點
第三位　本校（東京農教）　34點
第五位　水產講習所　33點
第六位　千葉高園　18點
第七位　東京高蠶　15點

（柳澤記）

本會記事

本會日誌

五月三日　楠森定男氏逝去せらる、弔詞を呈す
五月六日　會館使丁小山光子氏家事都合により退職す
五月十八日　松井正次氏名譽の戰死を遂げらる、弔詞を呈す
五月二十日　吉川けさい氏會館使丁に就職す
五月廿五日　會報第二十八號發送す
五月廿七日　三原磊藏氏名譽の職病死を遂げらる、電報にて敬弔の意を表す
五月廿八日　故松本直氏公葬執行せらる、久保事務員會葬す

銃後資金應募者

頭書ニ（2トアルハ第一回醵出者）

2 金壹圓也　關　博夫
右合計金壹圓也
累計金壹千六百參拾八圓四拾參錢也

石倉先生退職記念品贈呈

本會報前月號登載の收支清算書により、六月十四日發起人代表、東京郊外の先生宅を訪問致し、記念品として庭園樹木を贈呈致候間茲に御報告申上候

其節先生には深く會員の厚意を謝され、尚又其後發起人宛に御鄭重なる禮狀も寄せられ候に付併せて御報告申置候

尚本賞金募集は當初の豫定通り去る四月末日を以て締切り、其收支清算は前月號所報の如くに有之候得共、左記數氏は其後遲れて申込參候に付、茲に追加受付として報告致候

從つて收支清算も此分だけ增額する譯に御座候

記

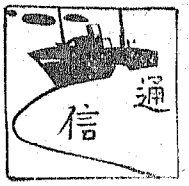
金拾圓　藤井富美男
金五圓　甲田　勝衞　笠原　正巳
田浦　準
金參圓　母袋　良平　成田　巴
門田　勇
金貳圓　依田覺之助　塩入　勳
青木　實造　金子　梓郎
金子　平夫

右合計金四拾四圓也
總合計金九百參拾四圓也　以上

會費領收（六月十日現在）

入會金納入者
完納者
岡田　景雄（鑑元）
昭和十八年度會費金四圓也
河野　太郎（鑑三）　北村　義近（鑑元）
目崎　正夫（鑑元）　稻田　實（絲一三）
荒木　榮（絲元）　町田　博（紡三）
昭和十七年度會費金四圓也
北村　義近（鑑元）　稻田　實（絲一三）
荒木　榮（絲元）　町田　博（紡三）
終身會費納入者
笠原　正巳（絲一五）

南方より



ビルマ軍政監部 瀧澤芳樹氏（絲一九回）より本會宛

ビルマ千曲會員其後一同元氣で頑張つて居ります。北原氏はシヤンステートへ、木曾君はサガイン地方へ、内藤氏はタラワディ方面へ夫々用務の爲出張中でありましたが今日此頃は皆落合つて頑が揃つて居ります。小生も最近メイクテイラ附近の綿作地へ出かけシヤンステートを廻つて歸着致しました。四人共皆夫々專門を生かして働いて居りますから御安心下さい。蠶研究所等もあり北方山間地は何の事はない内地そのまゝです。

繊維作物及其の加工、紡絲方法等はこれから重要な事と思ひます、學校から適任者の派遣を望みます。印度のジュートを守る爲ビルマのジュートを野生化した形跡があります。

化學繊維は當地では當分駄目です、培養工業が何もありません。

ビルマの正月が始りました、例の水かけ祭りです、うつかり外は歩けません、これが五日間續くと新年を迎へます、種々な事は書けませんが今日はこれ位にして置きます。

會員御一同の銃後健闘を祈ります。

叙任辭令

現職員之部
上田蠶絲專門學校教授　小松忠一郎
陞敍高等官六等（五月五日）
廣島縣立福山高等女學校教諭　福田　文矢
任上田蠶絲專門學校教授、敍高等官七等
八級俸下賜（五月二十四日）

舊職員之部
臺北帝國大學教授　田中長三郎
補農學部附屬農場長、職務俸二百七十圓下賜（四月一日）

卒業生之部
地方技師　岡部　康之
六級俸下賜、依願免本官（四月三十日）
公立青年學校長　九合喜右衞門
十一級俸下賜、年功加俸年額金百六拾八圓下賜（三月三十一日）
公立青年學校教諭　佐村　和夫
公立青年學校長ニ任ス、高等官六等持遇
防府青年學校長ニ補ス、九級俸下賜（五月四日）年功加俸年額金百九拾貳圓下賜（五月十一日）
朝鮮公立實業學校長　伊藤　喜代
七級俸下賜
朝鮮產業技師　尾見　祐八
七級俸下賜（以上三月三十一日）
公立中等學校教諭　岸　善蕊
七級俸下賜（四月三十日）

本校辭令

講師ヲ囑託ス（五月三十一日）　横澤　平
副手ヲ命ス、製絲科勤務ヲ命ス（六月四日）　井上　次郎
事務ヲ囑託し庶務課勤務ヲ命ス（六月十五日）　土屋　勝平

訃報

會員遺族よりの禮狀

故松本　埼玉縣大宮市並木上町一六七八
直氏　父　松本　濱治
五月二十八日大宮市葬執行
故松井　京都府何鹿郡奥上林村
正次氏　父　松井力太郎
二月九日北方に於て戰死
故岡部　群馬縣新田郡綿打村大根六一
康之氏　長男　岡部　忠弘
五月三十一日逝去

有志弔慰金に對する遺族よりの禮狀

故渡邊　善次氏　小縣郡長久保新町　父　渡邊　榮八

故尾崎　吉俊氏　小縣郡神川村　父　尾崎　吉衛

弔慰金報告（六月十日現在）

故飯田省三氏弔慰金
金壹圓也　近藤　二郎
右合計金壹圓也
累計金貳拾圓也

故福谷朝太郎氏弔慰金
金貳圓也　高須　兵司
右合計金貳圓也
累計金拾八圓也

故北澤孝一氏弔慰金
金拾圓也　井上　柳梧
金五圓也　本橋万三郎
金貳圓也　佐藤　義助　宮堀　俊雄
塚田　庸男
金壹圓也　小山　祖光　宮下　丈夫
河野　太郎
右合計金貳拾四圓也
累計金參拾貳圓也

故瀧澤七郎氏弔慰金
金貳圓也　關　博夫　長倉　稔
右合計金四圓也
累計金四拾貳圓也

故原利直氏弔慰金
金五圓也　池田正五郎
右合計金五圓也
累計金貳拾八圓也

故井上正人氏弔慰金
金參圓也　井上　次郎
右合計金參圓也
累計金參圓也

故松本直氏弔慰金
金貳圓也　栗山　良員
金壹圓也　町田　博　橋詰　紀人
右合計金五圓也
累計金五圓也

故蓮沼光治氏弔慰金
金參圓也　笠原　義人　宮堀　俊雄
金貳圓也　上村　賢造
金壹圓也　河野　太郎
右合計金九圓也
累計金九圓也

故有問正久氏弔慰金
金參圓也　小林　茂　清水　英人
森　三郎
金貳圓也　鈴木　彦佐　橋本正太郎
箱山　住夫
右合計金拾五圓也
累計金貳拾八圓也

故原英三郎氏弔慰金
金貳圓也　石川　健丸
右合計金貳圓也
累計金貳圓也

故中曾根長男氏遺兒養育資金受領報告（六月十日現在）

金貳拾圓也　井上　柳梧
金拾圓也　大崎　征内　渡邊　綱男
北原　健次郎　松岡　潔
早乙女　新一郎　亀山製絲株式會社
谷口　熊之助　山本三六郎
關　嘉四郎
金八圓也　山下　忠雄
金五圓也　和田　益巳　佐藤　義助
小宮山　太助
保證責任津藝類共同施設組合
宮堀　俊雄　中澤　乾一
則信　忠夫　中山　吉二
原田　親雄　蒲生　俊興
金四圓也　倉澤　美德
田中　亮
金參圓也　久保田正樹　渡邊　康平
高須　兵司　手塚　政吾
高木　三治　西田　屹一
金貳圓也　田中　康雄　中澤　勝也
中島　文雄　岡本　正男
小柳　源一　新井　清平
田村　亮　近藤　二郎
金壹圓也　首藤　行雄
右合計金貳百九圓也
累計金九百五拾六圓也

弔慰金募集

故蓮沼光治直氏（紡廿一）
故原三治氏（絲廿六）
故中村人久氏（蠶十五）
故有間正岩氏（蠶廿）
故青木美茂氏（絲廿六）
故楠森定男氏（絲廿六）
故松井次藏氏（絲十三）
故矢澤磊氏（紡十六）
故岡部登氏（蠶廿四）
故中村康之氏（蠶廿五）

以上十二氏に對し弔慰金を募集致します、故蓮沼氏は六月末日、故原氏は故松本氏、故有間氏、故青木氏、故三原氏、故楠森氏、故中村氏、故岡部氏、故矢澤氏は七月末日、故井氏は八月末日故村氏は昭和十八年六月迄に取纏め傷遺族へ贈呈致したいと思ひます。夫れに付ては各人に對する弔慰金の振替口座東京四三三四一番へ各人の上御拂込下さい。

昭和十八年六月
社團法人　千曲會

故原田兵衛氏弔慰金募集締切期日變更

故原田兵衛氏弔慰金募集〆切期日は都合上來る七月末日迄に延期致します。尚申込の御芳名の一部御參考迄に左に掲出致します。（敬稱略）

金百圓　小川　保　山本岩三郎
金五拾圓　蒲生　俊興　野崎　清
金參拾圓　林　貞三　万石安太郎
金貳拾圓　野口新太郎　高木　三治
金拾圓　山口定次郎　小松忠一郎
金五圓　塩田　潤　岡本　正男
町田　博
田浦　準
金貳圓　石川　健丸
金壹圓　白川　孝昌　市村志眞衛

發起人

有問さんを憶ふ

狸山長尾

—有問さん——
—有問さんが亡くなつた
—あの烏帽子の雪も溶けそめ
—あの太郎山の輪廓も柔かく
—あの小牧の樹林も色づいてゐるのに……

×

—有問さん——
—あなたは一体何處へいつたんですか
—校庭の櫻の花はこんなに美しく
—水仙が黄色い笑みを投げ
—ホラ桑の芽がこんなにのびてゐるのに……

×

—有問さん——
—あなたは何故亡くなつたんです
—常田池のよもぎが萠え出で
—染屋台のくぬぎが角ぐみ
—ホラ千曲川の水もこんなにぬるんでゐるのに……

×

—有問さん——
—あなたは何故亡くなつたんです
—あなたの最愛の妻が
—あなたの可愛い子供たちが
—そしてあなたの近親知己が
—こんなにも悲しむのも知らぬげに……

×

—有問さん——
—土屋さんと——
—西川さんと——
—もうどこにも居ない……

×

—冷え〳〵しき春雨よ——
—三人の魂を抱いて哭く
—三人の追憶を辿りて泣く
—我等三十有餘の胸を
—心ゆく迄ぬらしてくれ……

×

—運命とはかくも悲しいものでせうか？
—運命とはかくも苛酷なものでせうか？

（終）

會員動靜

（六月十五日現在）

オイタ 種田 芳男（現職）
小泉 所（現職）本校織維化學科、講師
福田 文矢（現職）本校圖書課長、教授（住）上田市北大手町六五五五
内田 浩（舊職）日本絹織工業株式會社總務部長（東京市荒川區三河島町七ノ七八〇）
目崎 三郎（舊職）日本建鐵株式會社總務部長（東京市荒川區三河島町七ノ七八〇）
廣川 正治（舊職）財團法人中部科學研究所（住）沼津市住吉町三四七ノ二
上原 清夫（獨一）公用（勤）日本蠶絲利用開發株式會社（東京市澁谷區常盤松町六六）（住）東京市澁谷區常盤松町六六
安孫子 文彌（蠶三）滿洲柞蠶株式會社安東支所（安東市大和區江岸通五二號）
岡部 康之（蠶四）昭和一八、五、三一死亡
長瀨 深見（蠶五）北海道農事試驗場北農會（札幌市琴似町）
萩原 孫三（蠶六）石川縣蠶業試驗場（金澤市西御影町）
岸 菅冤（蠶九）和歌山縣立和歌山中學校教諭（和歌山市豐原町）（住）和歌山市湊一五八
宮前 邦雄（蠶三）（留）群馬縣碓氷郡安中町舊郡五五
矢野 昌雄（蠶三）ビルマ派遣林三九六四部隊長、陸軍大尉
加々井 精喜（蠶三）小田原製絲東京工場內東亞繭革研究所（東京市板橋區練馬土支田町）
松本 一二（蠶六）群馬縣立利根農林學校、教諭（住）利根郡沼田町大字沼田八二二
村田 一由（蠶八）日本油脂德島工場（德島縣北島町高房）
濱村 一彥（蠶九）興隆四六一〇部隊（牡丹江第一軍事郵便所氣付）
上小地方事務所蠶絲課（住）長野縣埴科郡南條村
赤池 勝男（蠶一〇）滿洲柞蠶株式會社撫順出張所（撫順市大馬路六ノ六）
森川 博（蠶一〇）奉天省興農合作社聯合會（奉天市朝日區揚武街興亞會館內）
池田 俊郎（蠶一二）華中蠶絲嘉興支店（浙江省嘉興）
伊藤 幸男（蠶一二）
鈴木 正一郎（蠶一三）（勤）ナシ（住）山形縣酒田市秋田町入
牛田 義雄（蠶一三）岩村田中學校（長野縣北佐久郡岩村田町）（住）岩村田町相生町
井口 澄男（蠶一三）東部四八部隊
香山 護（蠶一三）京城陸軍病院
西 全（蠶一三）四日市高等女學校（住）三重縣鈴鹿郡椿村
佐藤 祐三（蠶一三）大東紡織株式會社三島航製作所（靜岡縣駿東郡清水村伏見六七）
長倉 穩（蠶一三）召集解除（住）靜岡縣駿東郡愛鷹村柳澤
中村 繁（蠶一五）六月一二日病死
松永 義德（蠶一五）長崎縣純心高等女學校（住）長崎市三山町三五
森 三郎（蠶一六）滿洲棉花株式會社
荻原 和夫（蠶一六）滿洲一二一部隊
大西 三郎（蠶一七）（通信先）札幌郵便局私書函一〇一號とノ武
佐藤 三夫（蠶一七）南海派遣三五六部隊
目崎 正夫（蠶一八）（勤）從前通り（住）京都市左京區北白川別當町三番地　植山菊之助方
竹村 義近（蠶一八）東部四九部隊、見習士官
北村 光司（蠶一九）東部五二一部隊
今井 眞幸（蠶一九）滿洲國興農部農產司織維作物科（新京特別市至誠大路）
桂 正三（蠶一九）東部一〇三部隊
佐藤 一郎（蠶二〇）豐橋陸軍教導學校
雨宮 二助（蠶二〇）豐橋陸軍教導學校
中島 陸男（蠶二〇）豐橋陸軍教導學校
綠川 榮一（蠶二〇）豐橋陸軍教導學校
永井 俊一（蠶二〇）久留米二陸軍豫備士官學校
三宅 武夫（蠶二〇）豐橋陸軍豫備士官學校
林 源三郎（蠶二〇）帝國人絹ヲ退社（住）東京市大森區池上德持町四五番地ノ二

松井正次氏戰死

製絲科第十三回松井正次氏は去る日名譽の戰死をさる。所屬部隊長より御遺族宛同氏の功績を稱へた左の如き報告が寄せられた。氏の奮闘振りを掲載して其の御冥福を祈りたい

拜啓　御令息正次殿の御戰死は中部第三十八部隊よりの公報により既に御承知の事と拜察致しますが茲に正次殿の部隊長として謹みて戰死の狀況を報告致します。

宿敵アメリカは今や頻りにアリューシャン方面に兵力を增强して同方面の失地を奪回せんとし、更に該方面より我が本土を襲はんと企圖して居ります。從つて該方面は陸海空共に益々重要性を加えつゝある時に際し、正次殿には昨年十一月二十四日重要任務を帶びて勇躍某地を出發しアリューシャン列島鳴神島に前進、同島に於て作戰參加中二月九日午前六時三十分敵哨戒機三機來襲約三十分の後一旦西方上空に退却致しましたが午前九時五十分再度北方上空より重爆擊機（コンソリデーデット）一〇機輕爆擊機（ノオスアメリカン）八機混成の編隊にて鳴神灣上空に來襲峻烈なる爆擊を反復して來ました。其の熾烈なる敵彈下に於て挺身部下を指揮中其の際不幸敵機銃彈命中右下腿部及腰部に貫通銃創を受けられしも猶最後迄部下の名を呼び續け壯烈なる戰死を遂げられました。（中略）

正次殿には寔崇高なる軍人精神の持主にて責任感亦實に旺盛、進取積極統御實行力に富まれ、態度殿正、品行方正にして洵に帝國軍人の龜鑑たるべき方でありました。さればこそ任務完遂を期待し特に重要なる任務を授けたのでありましたが武運に惠まれず戰半途にして護國の鬼と化したのは誠に痛恨の極みとする所であります。御遺族の皆様には何卒有戰死の狀況を御諒察の上正次殿の武臣たるの本分を完うせられた事を御家門の譽として矜持せられ長へに御繼承遊されます樣懇願致します。終りに臨み正次殿の御冥福を祈り上げると共に御遺族樣皆々樣の哀惜悲痛の心情もさりながら、今後益々御健康に御留意の上名譽ある戰死者遺族として一日も早く更生の第一歩を力强く踏み出されん事を北方の地より御祈り申上ます。

昭和十八年三月十日

曉第六一四一部隊　〇〇部隊長

御遺族

松井力太郎殿

……×……×……×……

昭和十八年六月二十日印刷（非賣品）
昭和十八年六月廿五日發行
編輯兼發行人　上田蠶絲專門學校內　荻原清治
印刷人（中長一六五）　上田市原町五七九五　中澤二郎
印刷所　上田市原町五七九五　中澤印刷所
發行所　上田蠶絲專門學校內　社團法人　千曲會
電話上田四〇六番・六六一番　振替口座（東京四三三四一番　長野六二四三番）

石坂虎治郎（絲五）
竹内健二（絲一〇）
獄渡乘光（絲一三）
宮崎弘（絲一七）
吉賀哲雄（絲一八）
山田良人（絲一八）
大池恒（絲一〇）
横澤平四郎（絲二）
宮島四郎（絲一三）
山口熊紀男（絲一三）
北澤泉（絲一三）
山岸琢郎（絲一六）
大山鎭洪（絲一三）
井上次郎（絲一六）
荒木榮（絲一六）
兒玉忠雄（絲一〇）
西野義雄（絲一〇）
松尾祥三（絲一〇）
岡豊次郎（絲五）
沓掛祥平（絲一〇）
平野庄一（絲一〇）
矢澤登（絲一〇）
柳澤二（絲一〇）
渡邊平夫博（紡一六）
金子博（紡一九）
龍谷精一（紡一九）
木内勵（紡一三）
澤武（紡一三）
深澤保（化一一）
小池義（化一一）
西池高雄（化一一）
川上連（舊教）
萩原すめ（舊教）
竹山ちか（教一一）
久子（教三）
堀江順（教四）
高橋ふじ子（教五）
峰村芳子（教六）
丸山きよ（教六）
清水敏江（教六）
米澤はじめ（教七）
片山幸（教七）
山邊律子（教八）
横澤時子（教八）
柳澤安枝（教九）
胡桃澤文代（教二）
春原たつみ（教二）

鐘紡笹木野工場長（福島縣信夫郡野田村）（住）全上社宅
日本蠶絲製造株式會社總務部營繕課長（東京市京橋區三ノ二、片倉館内二階）（住、通信先）東京市杉並區正保町八〇
明星鑛業、但馬鑛業所（兵庫縣朝來郡中川村）
歸還（住）靜岡縣濱名郡新所村
西航空機寶塚製作所機械部（住）兵庫縣芦屋市打出字中山一三
（勤）長野縣廳勞政課（住）長野市權堂町一二六番戸
日本蠶絲製造株式會社工務部（東京市京橋區京橋三ノ三片倉館内第一分室）
農林省蠶絲試驗場化學部傘本校講師（住）上田市錦町
歸還（住）東京市葛飾區本田立石町一七五
興國人絹パルプ八代工場（熊本縣八代市）（住）八代市横手町九〇七、
全上社宅
東洋パルプ株式會社（滿洲國間島省汪清縣國們市石峴）
公用（留）高田市東本町四丁目
郡是工業株式會社大邱紡織工場（大邱府七星町二〇）（住）朝鮮慶北大邱府達城町二〇七番地
本校製絲科副手（住）上田市上紺屋町　林英勝方
日立製作所龜戸工場壓縮工場課（東京市城東區龜戸町八ノ一八〇）
（住）東京市葛飾區下小松町一二四二日立寮
前橋陸軍豫備士官學校（留）東京市淀橋區戸塚町三ノ一〇二九
豐橋陸軍教導學校（留）大阪市東成區生野田島町二三六
北支派遣甲一六四九部隊
勤務先檢査所ハ廢止トナル（住）愛知縣津島町南門前町二丁目
中支派遣原四六二九部隊（留）上田市鎌原母（よう）
毛織物檢査所ヲ退職（住）兵庫縣蘆屋市打出字宮塚七番地
昭和一八、四、二〇　於南方戰死
大同毛織龍野工場（兵庫縣揖保郡平田村）（住）全上社宅
北支甲八三部隊　陸軍主計少尉（留）長野市西町二九番戸渡邊吉次郎
南海派遣河三五六部隊

千曲會指定旅館案内

（宿料は下目は問合せ中）

	旅館名	所在地	電話	壹等一泊二食付	貳等一泊二食付	參等一泊二食付	サービス料
上田	上村館	信越線上田驛前	上田三四四番				
信州菅平高原	菅平ホテル	信州菅平高原	菅平一番				
全	別館望岳莊	全	菅平一番呼出				
全	鐵道省山の家	全	菅平一番呼出				
上田市外別所	花屋ホテル	信州別所温泉（上田驛ヨリ電車ニテ三〇分）	別所一三番 三一番				
全	柏屋別莊	全	別所一二番				
戸倉温泉	笹屋ホテル	信州戸倉温泉（戸倉驛ヨリバスニテ一〇分）	戸倉特長三番 一〇番 一三番 一〇三番（別莊）三四番（驛前案内所）上山田一七番 下谷（83）六四五番（東京出張所）				
全	上田館	全	戸倉二七番				
上山田温泉	清風園	全	上山田代表五六番 一六番 一四番（別館）戸倉三六番				
全	園山莊	全	上山田園一九番 戸倉七五番 淺草（80）三七番 福島（45）四六七番 東京大阪案内所				
東京							
名古屋							
京都							
大阪							

昭和十八年六月二十日印刷
昭和十八年六月二十五日發行　第二十九號　【非賣品】

發行所　社團法人　上田蠶絲專門學校　千曲會
（振替口座　東京四三三四一番　長野六二四三一番）